

名古屋にみる

保健師

新型コロナウイルスの感染拡大と共に、疫学調査や入院調整などを行った保健所は負担が集中し、職員が休日出上で対応に追われてしまう。感染症以外にも震度防災止むる対策の相談・健診などの業務を抱える保健師は「コロナ禍で通院業務を並行してやっている看護の人数が必要だ」と訴えます。

王氏文集

職員終日で対応。昨年4月から今年1月までの調査時間は最大で月1~2時間に上りました。

感染症が発生した場合、保健所は感染拡散法に基づき、感染経路や濃厚接触者、感染者を探査、医学調査や検査接觸者の検査、陽性者の入院調整などを行なっています。

市内の感染者は「第1波」(昨年2~4月、陽性者が20人以上)、「第2波」(同年7~8月、同222人)、「第3波」(同年1月、同784人)、今年1月、同784人)です。

前田の保健師は、感染者本人の不安を聞くことから始まります。その後、濃厚接触者を探るために、誰かについてじぶん、何をしたのか、できるだけ詳しく聞くと一人につき、一時間~一時間半ばかりかかります。

陽性者が職場や学校、サークルに入りしていたら団体合併、その団体にも調査。濃厚接触者一人ひとりに連絡を入れ、PCR検査の手配や2週間の健診観察を行ないます。患者や検体の搬送

コロナで疲弊 休日返上／残業月192時間



名古屋市内の
保健センター

住民の健康守る業務が犠牲に

別の30代の保健師は「感染が酷い」と嘆いていた。感染症が一つ起きたら通常業務がヘドロであるから、その体制に電話で状況を聞くだけで、「どうしたのか」などと尋ねる。保健師も不安な感じになってしまいます。昨年3月に第一次を主催した女性保健師会は、子を出産した女性が、



保健センターの職員から実態を聞く（左から）すやま初美党
愛知県委員会副委員長、岡田ゆき子名古屋市議、もとむら議
員。左端は市議会議員（2020年12月8日、名古屋市）

**総務省要請
増員の回答**

3ヵ月健診が延期され、生後6ヵ月でやっと産検できただとうまく。「3ヵ月だらねは夜に子守唄が元気な動物音」といふので、私の睡眠が取れずつらかった。
(生後2ヶ月)離乳食のことなど始める。離乳食の聞けていれば3ヵ月健診で聞けて、「もう少し心構えもできた」